

地域人材ネット

2004年新潟県中越地震からの 市民と行政との協働による復興まちづくり

稲垣 文彦 (いながき ふみひこ)
社団法人中越防災安全推進機構 業務執行理事・統括本部長



○ 登録者情報 所在地

新潟県長岡市

略歴

長岡技術科学大学大学院 技術経営研究科専門職学位課程修了

新潟県中越大震災直後から山古志村の災害救援ボランティア活動に関わる。

2005年5月、地域復興のための中間支援組織「中越復興市民会議」を創設し、事務局長に就任、現代表。

現在は、社団法人中越防災安全推進機構復興デザインセンター長を兼務し、被災中山間地域に設置されている地域復興支援員の人材育成等に従事。

また、最近では、国の過疎対策として推進されている「人による集落支援」施策としての集落支援員や地域おこし協力隊等をネットワークする「地域サポート人ネットワーク全国協議会」の設立に尽力、このネットワークを基盤に全国の中山間地域の再生や防災対策に力を入れている。

著書・論文等

「いのちとところを救う災害看護」・共著・平成20年6月・学習研究社

災害ボランティア論入門・共著・平成20年12月・弘文堂

平成21、22年度防災士教本・共著・平成20年4月・NPO法人日本防災士機構 ほか

○ 2004年新潟県中越地震からの市民と行政との協働による復興まちづくり

取組の内容

2004年に発災した新潟県中越地震は、もともと過疎・高齢化の課題をかかえる中山間地に甚大な被害を及ぼした。結果、震災を機に更に人口減少がおき、過疎・高齢化が急速に進み、中越地震の復興の課題は、中山間地域の持続可能性の獲得となった。

この復興において、地域復興のための中間支援組織「中越復興市民会議」を立ち上げ、市民と行政との協働による復興まちづくりを行ってきた。復興において、市民と行政、市民と外部支援者、市民と市民をつなぐ中間支援組織の役割は極めて重要で、中越地震の復興においては、中越復興市民会議が果たした役割は極めて大きかった。2011年現在では、中越復興市民会議をモデルとした「地域復興支援員制度」が新潟県中越大震災復興基金によって制度化され、約50名の地域復興支援員が被災中山間地において活躍をしている。この地域復興支援員は、市民主体のまちづくりをバックアップするとともに、外部支援者とのつなぎとして都市と田舎の交流などを促進している。また、現在では、市民主体のまちづくりを継続的に行っていくための地域経営の取り組みを行っている。

実績

- ・震災を機に地域づくりを行っている集落数・・・100集落を超える（旧山古志村、旧川口町、旧栃尾市、旧小国町、小千谷市、十日町市、魚沼市、南魚沼市ほか）
- ・地域経営に取り組む地域数・・・3地域（旧川口町、旧山古志村、旧小国町）

工夫した点や苦勞した点

- ・地域復興交流会議の開催・・・半年に一度、まちづくりに取り組む集落をあつめ情報交換、連携を促進するとともに、競争意識を芽生えさせた。

ひとことPR

地域経営改革、震災復興まちづくりは、これまでの成功事例を模倣することでは達成できない。かぎは、人づくりとなってくる。私の進め方は、できる限り地域に滞在し、住民、行政機関との信頼関係を築くなかで、地域リーダーとともに住民主体のまちづくりを進めていく。いずれにしても、住民主体のまちづくりが継続するための支援を長期にわたって行っていく。

○ 参考 取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

○	1	地域経営改革		7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進	○	11	その他(災害復興まちづくり)
	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

中越防災安全推進機構復興デザインセンター	http://www.fukkou-dc.jp/
中越復興市民会議	http://www.cf-network.jp/

連絡先

メールアドレス	inagaki[アットマーク]cosss.jp	その他
---------	-------------------------	-----

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。